

| | | | | | |
|------|----|-----|-----------|-----|-------|
| 学校番号 | 73 | 学校名 | 川崎市立有馬小学校 | 校長名 | 本田 明子 |
|------|----|-----|-----------|-----|-------|

| 学校教育目標 | 今年度の学校経営の目標 | 今年度の重点目標 |
|---|---|--|
| <p>【がんばる子】・・・意欲をもって学習し、ねばり強くがんばる子 【やさしい子】・・・他の人の気持ちや考え思いやりのある言動ができる子 【元気な子】・・・元気でたくましく、いろいろなことにチャレンジする子</p> | <p>・子供が生き生きと活動し、安心して学べる学校づくり ・子供が主体的・協働的に学び合い、考えを深め合う学校づくり ・お互いに尊重し共感しあえる心をはぐくむ学校づくり ・地域や保護者との連携を基にした学校づくり</p> | <p>◎自主性・主体性の伸長 ◎校内研究の推進 ◎豊かな心の育成 ◎健康教育の推進</p> |

学校教育目標スローガン：一歩前へ 聴きあい伝え合い つなごう有馬

◎自主性・主体性の伸長 ◎校内研究の推進

| 評価項目 | 具体的な取組 | 成果と課題 | 具体的な改善策 | |
|---|--|---|---|---|
| 1 | <p>児童は、学校教育目標スローガンを意識して学校生活を送っている。</p> | <p>・学校行事だけでなく係活動などの普段の生活においてもスローガンを意識して挑戦したり友達と協力して取り組む姿がみられた。やりたいこと・やるべきことを見つけ、児童が主体的に活動する姿が増えてきている。</p> | <p>・今年度の振り返りをもとに、次年度も児童会の取組として、学校教育目標スローガンについて話し合い、学校教育目標達成のため、学校全体で取り組む。</p> | |
| 2 | <p>児童は、自分自身が成長するための目的をもって学校生活を送っている。</p> | <p>・個人目標をもって学校生活を送ることができていた。キャリアノートの保護者の方からのコメントが大きな励みになった。定期的な学級での振り返りや学校行事の振り返りなどで自分の成長を感じ、次の目標を設定する姿がみられた。</p> | <p>・児童に活動のねらいや目的を自分ごととしてとらえ、必要感や切実感をもって活動に取り組む、やってみようという達成感を味わえるようにする。学んだことの振り返りを大切にキャリアパスポートの記録を生かして次の目標につなげられるようにする。</p> | |
| 3 | <p>児童は、「よくわかる！有馬小学校」の学習や生活についての約束を守って生活している。</p> | <p>◎「よくわかる！有馬小学校」を基本とした一貫性のある指導 ・職員会議、打合せ、各種部会等で共通理解を図る。 ・児童による毎月の生活目標の発表と振り返りを行う。</p> | <p>・職員で共通理解を図り同じスタンスで指導を重ねることで、児童がふれを感じていくことができる。保護者と共通理解を図ることで概ね保護者の理解・協力を得ることができているが、「学校にひつうのないものをもってこない」と課題も残る。</p> | <p>・職員会議や打ち合わせ等で職員間の共通理解を図り、指導のぶれがないようにする。今後も継続して取り組むたい。 ・保護者と学校生活について共有理解を図り、より一層のご理解ご協力をいただきながら児童が安心して学校生活を送れるようにする。</p> |
| 4 | <p>児童は、学んだことを振り返ったり、次に使ったりしている。</p> | <p>◎校内授業研究テーマ「経験を道しるべにして ゴールに向かって進んでいく子」の具現化 ・各教科の思考力・判断力・表現力を育てるための指導方法など、職員間で研修の機会を設け、授業力向上に努める。</p> | <p>・失敗や成功経験から学んだことを課題解決につなげたり次に生かせることを具体的に振り返る指導を大切にしている。</p> | <p>・授業研究、職員研修で指導方法や指導内容について学び、授業力向上に努める。教師間の学び合いを通し、教材研究を充実させる。今後も授業研究を通して、児童の思考力、表現力、判断力の育成をめざす。</p> |
| 5 | <p>児童は、自分の課題が分かるGIGA端末を用いた学習や少人数指導などによって、自分のペースで学習する機会がある。</p> | <p>◎個別最適な学びの充実 ・ICT機器を活用した授業の工夫、GIGA端末「ドリルパーク」機能の活用 ・算数少人数制では、ガイダンスを行い、児童自らがコースを選択、単元ごとにコースの見直しと変更</p> | <p>・児童のGIGA端末の技能習熟度が上がり、友達との意見交換も授業での活用場面が広がった。自分に必要な学習の選択、自分のペースに合った問題数の選択などに取り組んでいた。算数少人数制ではよりきめ細やかな指導を行うことができた。</p> | <p>・次年度も自分の課題がわかると、自分の状況に応じて学習に取り組めるように指導する。</p> |
| 6 | <p>児童は、GIGA端末を学習以外に使用しないなど、扱い方の約束を守って利用している。</p> | <p>◎情報モラル教育の推進 ・外部講師による情報モラル講習会の実施 ・GIGA端末の扱い方に関するまわりの確認、学年始、長期休業前などの継続的な指導</p> | <p>・日常的、継続的な指導、外部講師による講習会の実施、長期休業前などの保護者への周知と協力のお願いで大きなトラブルの未然防止はできた。しかし、GIGA端末を学習以外の目的で使用する事案もあった。</p> | <p>・次年度も情報モラル教育に計画的に取り組む。保護者と協力し、GIGA端末を持ち帰りの際、児童が学習の目的に沿った使い方ができるようにする。</p> |
| 7 | <p>児童は、学習、遊び、行事などを通して、体を動かして体力を向上させようとしている。</p> | <p>◎キラキラタイムの充実 ・体育委員会主催のキラキラタイムを実施。全校で身体を動かす活動に取り組む。</p> | <p>・朝や中休みの運動場が有効に使われ、季節を問わず思いっきり体を動かしている児童が多い。半面、運動を億劫と感じ、屋内で過ごす児童もいる。 ・軽い運動による骨折や体力が落ちている児童が見受けられる。</p> | <p>・体力向上をめざし、キラキラタイムや集会活動を引き続き充実させて児童が楽しんで体を動かす機会を増やす。</p> |
| ◎豊かな心の育成 | | | | |
| 8 | <p>児童は、必要ときに相談できる機会があり、安心して楽しく学校生活を送っている。</p> | <p>◎支援教育COや巡回カウンセラーなどによる教育相談の充実 ・教職員の見取りの共有に努め、個の指導に生かす。 ・支援教育COによる教育相談日や希望制教育相談など保護者が相談する機会を多く設定し支援につなげる。</p> | <p>・教育相談窓口として支援教育COや巡回カウンセラーが周知され、相談件数が増加した。継続的に相談されるケースも増えてきている。また、保護者だけでなく児童からの相談も増えてきている。</p> | <p>・定期的な情報交換をし、支援の仕方について話し合い、早期に手立てを講じることができた。保護者との連携をとることでよりよい支援につなげている。</p> |
| 9 | <p>児童は、友達と、なかよく、お互いを大切にしている。</p> | <p>◎人間関係づくりを深める学級経営 ・共生＊共有プログラムの活用を通して、前向きに人と関わろうとする気持ちやスキルを育み社会性を高める。</p> | <p>・多様な個性をもった友達と上手に関わるように感じている。友達へのことを素直に認め、伝えることができる子どもも多い。 ・自分の思いを上手く相手に伝えられず友達関係がうまく築けず困っている児童もいる。</p> | <p>・友達との関係づくりが苦手な児童については担任だけでなく支援教育COを中心に支援体制を組み支援にあたる。</p> |
| 10 | <p>児童は、いじめは絶対にいけないと考えている。</p> | <p>◎人権尊重教育の推進 ・「学校生活アンケート」や日頃からの見取りで状況把握、早期対応 ・全校でいじめゼロを目指した人権標語づくりなど予防的取組</p> | <p>・効果測定と児童の意識アンケートを実施することで児童理解が進んだ。児童の振り返りアンケートで最も肯定的回答の割合が高く、「いじめは絶対にいけない」の意識が向上している。</p> | <p>・人権尊重教育、全校でのいじめ標語への取組の他、児童の変化に注意を払い、職員間で情報交換をし、いじめの予防的対応と早期発見、早期対応に努める。</p> |
| 11 | <p>児童は、友達の意見を聴いたり自分の意見を伝えたりして、お互いを尊重しあっている。</p> | <p>◎協働的な学びの充実 ・児童が他者を意識して思考したり表現したりするなど、自分の考えを練り上げ深い学びを実現できるような授業の工夫</p> | <p>・額を寄せ合って話し合うなど児童同士の話し合いが増えている。また、聞く姿勢も育ってきており、相手の話に最後まで耳を傾ける児童も増えてきている。学年によっては一方的に自分の意見を主張するのはなく、相手の意見を踏まえて折衷案や代替案を提案する姿も見られるようになった。</p> | <p>・教師と児童、児童同士の関わり合い、各教科等の特質に応じた体験活動を通じて児童が多様な他者と協働することの重要性を実感しながら学ぶよう、家庭や地域と連携して取り組む。</p> |
| 12 | <p>児童は、GIGA端末を使って、友達に発表したり、意見をやり取りしたりすることができる。</p> | <p>◎ICT機器を活用した授業の工夫、GIGA端末の活用 ・「かわさきGIGAスクール構想推進協力校」として、GIGA端末の効果的な活用に関する研究・研修の実施。 ・普段の学習活動においてGIGA端末の活用場面を増やし、情報活用能力の育成を目指す。</p> | <p>・研修したことを授業で生かしGIGA端末を活用することで、低学年では互いの意見を合ったり、中学年では意見を分類整理したりするにGIGA端末を用いることができるようになった。高学年では社会科や外国語の学習でのプレゼンテーションをするなどもできている。</p> | <p>・今後もGIGA端末の機能を使い、話し合い活動や意見・感想交流など学び合いが更なる進められる。 ・GIGA端末の授業での活用をより進められるよう教員の研修会の実施したり機器の整備を進めたりする。</p> |
| 13 | <p>児童は、異学年交流を通して、上級生として下級生の良い手本となるようよい行動をしたり、あこがれの先輩生になるための目標をもっている。</p> | <p>◎たのび活動やペア学年を中心とした異学年交流の充実 ・くりの子活動では6年生がリーダーとして遊びを企画運営したり、クローン作戦にのり子班で取り組むなど異学年交流の場を多く持つ。 ・低学年遠足でのグループ活動やありんピックで表を上に級生が下級生に教える活動をする。</p> | <p>・6年生がリーダーとして活躍し自己有用感を高めるとともに、その活躍する姿をみて学んだ5年生が高学年としての自覚をもつようになっている。異学年交流を通して下級生が上級生に憧れをもっている様子がみられる。</p> | <p>・引き続き、高学年児童だけでなく、中学年児童も自主的・積極的に取り組めるような活動内容の工夫をする。クローン作戦にのり子班で取り組んだり、作業鑑賞の感想交流をペア学年で行うなど交流の機会を多く設ける。</p> |
| ◎健康教育の推進、保護者・地域との連携・協働 | | | | |
| 14 | <p>児童は、有馬小学校の地域や保護者との連携、地域人材の活用</p> | <p>◎地域や保護者との連携、地域人材の活用 ・体験活動として、サマソモ作り(1年)、町探検など学区に関する学習(2・3年)、れいんぼ川崎との連携(4年)、米作り(5年)、地域の方から生き方を学ぶ学習(6年)などに取り組む。</p> | <p>・実際に体験することで苦労や喜びを味わったり新たな発見をしたり、地域の人々とも仲良く愛着をもった。 ・地域の商店や町会の掲示板などにポスターに掲示するなどし、学んだことを地域に向けて発信することができた。</p> | <p>・地域材を生かした年間を見通した学習計画の立案と新しい地域材の開発。 ・川崎市制100周年をきっかけに、学校や地域の人々、もの、こととのつながりを意識した学習に取り組む。学校や地域を愛する心を育むとともに地域に発信しつなげていく。</p> |
| 15 | <p>児童は、進んであいさつしている。</p> | <p>◎あいさつの推進 ・高学年児童が自主的に「あいさつ運動」として取り組んだ。 ・今月の生活目標として重点的に取り組む期間を設定。代表委員会の議題として全校に投げかけ取り組む。</p> | <p>◎もっとよい有馬をつくりだそうと、高学年児童の自主的なあいさつ運動への取組が他学年に広がり、進んであいさつする児童が増えてきている。 ◎通学路で登校見守りの地域の方や旗振りの保護者へのあいさつがまだできていない児童が見受けられる。</p> | <p>・児童が自主的にあいさつ運動に取り組むようになり、相手より先にあいさつができる子を増やす。 ・校外でもできるようPTAや地域と連携し、地域で登下校時などあいさつする機会を増やす。</p> |
| 16 | <p>児童の登下校時などに、保護者や地域の方々が、それぞれのできる範囲で、児童の見守り活動をしている。</p> | <p>◎安全な登下校、放課後の教育環境作り ・学校運営協議会へ働きかけ、町会や民生委員の方々に児童の見守りへの協力依頼。見守り意識をもって買い物や散歩に臨んでもらうためのアイテム配付。</p> | <p>・PTAの旗振り活動や地域の交通安全ボランティアの方々に加え、学校運営協議会が主体の見守り活動が始まった。各自自治会の方々、民生委員の方々、PTA役員など地域の方々も見守りに協力して下さった。</p> | <p>・PTAの旗振り当番や地域の方が登校時見守りをして下さることで、児童の安全な登下校につながった。学校運営協議会からの地域への協力依頼で、町会等地域に見守りの輪が広がっている。今後も協力をお願いしていく。</p> |
| 17 | <p>学校は、学校教育説明会や報告会、ホームページ、ミマホーム、学校だより、学年だよりなどで情報を発信している。</p> | <p>◎メール配信や学校ホームページの活用 ・保護者と学校との間のやり取りを紙媒体でできるだけ用いず、メール配信や学校ホームページを活用する。</p> | <p>・学習公開や教育相談の案内等の連絡手段としての紙での配付を極力減らし、メール配信やホームページへの掲載とすることで、保護者の方がいつでもどこでも確認できるようになった。</p> | <p>・川崎市の取組の脱炭素戦略「かわさきカーボンチャレンジ2050」に沿って、メール配信や学校ホームページを活用し、今後も紙媒体使用の削減に努める。</p> |
| 18 | <p>学校は、校舎内外の営繕や清掃、緑化および教材備品・消耗品の整備に努めている。</p> | <p>◎安全で整理整頓された校舎内外の教育環境づくり ・児童が安心・安全に過ごせるよう、校舎内外の営繕や清掃、緑化および教材備品・消耗品の整備に努める。</p> | <p>・植栽の整備や校舎の修繕を計画的にすすめ、安全で整理整頓された教育環境づくりに取り組んだ。落し物コーナーやリサイクル回収ボックスをリニューアルするなどすることで明るい雰囲気になった。</p> | <p>・設備面での修繕の必要な箇所がある。順次優先順位の高い箇所から対応するとともに、令和6年度から予定されている校舎内の再生整備工事で整備を進める。</p> |
| 学校関係者の評価 | | 学校運営のまとめ | | |
| <p>・子供たちの進んでふれ合おうとする姿勢、進んで思いを伝えようとする姿がとてもすばらしい。 ・他の人の話を聞こうとする姿がよくわかった。 ・人とつながってこうとする姿があたはくとも良い、大切にしていきたい。 ・GIGA端末、道具に使われているのではなく、道具を使って自分を表現しているように感じた。目的に向かっていこうとがんばっていた。</p> | | <p>コロナ感染症が5類に移行となり、基本的な感染症対策をとりながらも予定された教育活動に取り組むことができた。運動会や授業参観、懇話会など保護者が学校に足を運ぶ機会を多く設けたことに加え、それぞれの場面で児童のがんばる様子を見ていただけたのではないかと感じる。また、地域の方との交流もふえた。有馬のまちに飛び出し、地域の人々と深くかかわり、その思いに触れ、学校の中だけでは得られない経験、感動を得ることができた。学校運営協議会の方々を要として地域で活動した児童たちを見守っていただくことができてきている。来年はかわさき市制100周年、これらも地域とのつながりを大切にし、自分たちの周りの全ての人、もの、ことの出会いに感謝の心をはらみながら誇りに思い、進んで育んでいきたい。</p> | | |